



カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

8月19日号

令和6年 8月19日

校長 小堺 広司

学校教育目標

「やさしく

かしこく

たくましく」

～世界の架け橋となる子ども
たちの育成を願って～



チャレンジするから最高にうれしい瞬間に出会えるし、最高に悔しい瞬間にも出会える！

～ 2学期が始まりました。どうぞよろしくお祈りします ～

8月5日(月) 2学期始業式。

日本の学校の中で、リオデジャネイロ日本人学校が世界一早く学校が始まります。南半球であるがゆえの特徴ですが、今年の冬は特に寒く、暖房が欲しくなる日もあります。

2学期はたくさん行事や体験活動があり、日々の学習と共に大きく成長できるチャンスの時です。チャレンジする目標をひとつ決め、一歩ずつ前進しましょう。

「チャレンジするから最高にうれしい瞬間に出会えるし、最高に悔しい瞬間にも出会える！」

リオ日学10人の仲間たちと過ごす日々は、陽だまりの温かさの中にあります。喜びも悔しさも共有し、勇気をもってチャレンジしましょう。

命を授かった全てのことに感謝しながら、リオ日学の日々を大切に過ごしましょう。

○ 2学期は！

- 8月23日(金) ギター工房見学
- 9月 9日(月) 連邦大交流
- 9月27日(金) 親子安全教室
- 10月 4日(金) 第二回英語検定
- 10月 6日(日) オープンデー
- 10月19日(土) 文化祭
- 10月25日(金) 総合学習(ブラジル料理を作ろう！)
- 11月8日(木)～9日(金) 宿泊教室
Paraíba do Sul 方面
- 12月 3日(火) クリスマス会
- *連邦大交流＝30人余のブラジル人大学生がリオ日学に来て、一緒にお互いの文化を紹介したりゲームをして、昼食を食べて解散となります。
- *オープンデー＝リオ在留邦人未就学のお子さんをお招きしてリオ日学の学校生活を体験してもらいます。リオ日学の子どもたちは読み聞かせや学校探検で活躍します。
- *文化祭＝商工会員及びその家族、連邦大、州立大、モデル校学生をお招きして、劇やワークショップ(折り紙・お手玉・けん玉)を開催して交流します。
- *リマ・ボゴタ・サンホセ・サンチアゴ日本人学校とのオンライン合同授業を、教科や学年ごとに実施していきます。

○始業式校長講話(8月5日)より

みなさん、おはようございます。23日間の冬休みはいかがでしたか。今日から始まる2学期は、新しい自分と出会う成長の時間となります。楽しみにしてください。

さて、日本は夏。どんな花が咲くか写真を見て当ててもらいます。ノウゼンカズラ・サルズベリ、夏の午後、暑さで外を歩く人も少なく、青空と入道雲に赤い花が静かに咲いている印象があります。私はこの花が好きです。

13年前、父がこの季節に亡くなり、葬儀を終えて帰宅した時、庭に咲くこの花を見て、現実に戻って自分が今どんな気持ちでいるか確かめられました。日本から送られた画像を見るたびに、またあの季節が巡ってきたのだなと感じます。

原爆の日・終戦の日・お盆など、亡くなった方の魂を悼む文化が日本にはあります。お盆は亡くなった方の魂が私たちの側にやってくると信じられています。全国的には8月13日から16日で、地域によっては、養蚕や商売の関係で季節をずらし7月23日頃やる所もあります。皆さんも、日本人として、亡くなった魂を身近に感じ、悼み、今生かされていることに感謝して、リオ日学の仲間を大切にしてください。

パリオリンピックが始まっていますが、皆さんが応援した男子バレーボールチームは頑張っていますね。私が出会ったオリンピックの話をする。その方の名前は「永田睦子さん」というバスケットボール選手です。長崎県で生まれ、中学・高校とバスケットボールをがんばりアトランタとアテネオリンピックに出場しました。身長178cmのフォワードでバスケットリングにぶら下がるほどの身体能力です。私は永田さんを学校にお招きして、一緒にバスケットボールをしたり、全校生徒に話を聞いていただいたことがあります。駅に迎えに行った時、初めて会う方なのに、全身からあふれ出す魅力から、「あっ、この方だ！」とひと目で分かりました。

永田さんは、高校3年生の時、ウィンターカップという全国大会に向けて練習していたとき、コーチから「全国で優勝する」と言ってみると命令され、思ってもいない大きな事を言えるはずがないと考えていたら、「できないと思ってるだろ」と見透かされ、このこと以来意識が変わり、「できない」を口にせず、もうワンステップ上がるためには？と考えるようになり、結局この大会は全国準優勝となったそうです。

シャンソン(実業団バスケ)に入部後、178cmの身長を生かすには、3Pシュート(外からのシュート)は苦手だが、ボックスアウト(体を張って守る)、ルーズボールに負けないう、ドライブイン(ゴール下にねじこんでシュートを決める)は得意というように、自分の得意を見つけて大切にしました。

引退後、バスケ教室で中学生にプレーを教える時、少し難しいことを要求すると、「できない」「できないかもしれない」とやらない者が多く、「とりあえずチャレンジしてみないと成功も失敗もない、成功したら次のステップを、失敗したらもう一度チャレンジすればいい。」と感じるそうです。

夢は願えば叶うと信じることは大切ですが、全員が叶うわけではないし、チャレンジを続けているうちに叶う夢もあります。チャレンジするかあきらめるか迷うけれど、チャレンジしたから最高にうれしい瞬間に出会えるし、最高に悔しい瞬間にも出会える。それをしないことはとても残念な生き方だとお話いただきました。

皆さんの未来は「これから」であり「何にでもなれる」と考えます。リオ日学で、勉強、運動、芸術、習い事、趣味に頑張るみなさんは、この話をヒントにしてチャレンジしてみましょう。これから始まる2学期が楽しみです。

○ ようこそリオ日学へ！よろしくね！



8月6日(火)、杉山椿季さん(小5)が、リオ日学に編入学してくれました。これまで、体験入学を通してリオ日学の仲間たちと何度も交流しています。明るく元気いっぱいの杉山さんと、これから始まるリオ日学の生活がとても楽しみです。学び、遊び、集い、思う存分、リオ日学を楽しんでください。

○ 学びがたくさん！～おかげさまでの心～



8月6日(火)、⑤⑥時間目、小塚茜先生による出前授業を行いました。茜先生は埼玉県狭山市の中学校で国語を教えています。夏休みの休暇でリオを訪問し、リオ日学の子どものために、国語と道徳の授業をしてくださいました。

最初に「漢字列車」をやりました。漢字が一文字だけ書かれた何枚ものカードをふたつ繋げて二字熟語を組み立て、そこからさらにつなげて、いくつの熟語ができるか二人組に分かれて競い合います。時間制限の中で焦ると結構難しく、みんな夢中になって楽しめました。

道徳では「おかげさま」の心という主題で、発明王のエジソンとその母の話です。

ある日、7歳のエジソンは学校から預かった手紙をお母さんに渡しました。それを読んだお母さんは目に涙をためてその手紙をエジソンに読みました。「あなたの息子さんは天才です。その息子さんに教えらるる教師はこの学校にはいません。これからは、お母さまが息子さんの先生になっていただけますか。」

その日から、エジソンは学校には行かず母親から教育を受けて育ちました。そして、エジソンは発明王になったのです。

母親の死後、遺品整理をしていたときエジソンは、当時の手紙を見つけました。そこには

「あなたの息子さんは精神疾患患者です。これ以上、学校に来ることはできません。」と書かれていました。エジソンは、物事の本質を知りたいがる子どもでした。1+1=2と教えられると「どうして、1+1=2なのですか？」と聞く子どもだったそうです。そんなエジソンは手に負えない問題児として扱われ小学校退学になったのです。でも、母・ナンシーの大きな愛と息子の可能性を信じる強い心が発明王を誕生させました。

『何があっても支えてくれた母がいたから、いまの私がある。母だけは何があっても、あるがままの私を理解してくれた。どんなに苦しいときでも、母を喜ばせたくて私は努力を続けることができた。すべて母のおかげだ。』 トーマス・エジソン

このエピソードを基に、「人に感謝し、おかげさまと言える人はどんな人だろう」「おかげさまで感謝したい人はだれがいるだろう」という問いかけを考え、意見を発表し合いました。

茜先生はバレーボール男子日本代表セッターの関田選手が大好きで、バリ五輪出場権を得た時、ガンで亡くなったチームメイトの藤井選手のおかげで勝てたと、亡き藤井選手のユニフォームを着てインタビューに答えた話を引用されました。また、「おかげさまで」と言えるためには「**気付く力**」が大切であると話されました。

子どもたちの書いた「おかげさまで」を伝えたい人は「母」「父」の順番でした。以下、子どもたちの感想です。

- ・支えてもらうだけでなく、だれかを支えてあげるような人になりたい。
- ・当たり前の中には、たくさんの人々の努力があることを自覚し、その人たちの期待にしっかり応えていきたい。
- ・たくさんおかげさまで伝えたい人がいることに気付きました。「ありがとう」と言いたいです。
- ・家族に感謝しております。ありがとうございます。
- ・「感謝」は、自分を見守り、支えてくれる人に伝える言葉だと思ふ。自分が今度は恩返ししたい。



○ 全員そろった！



8月19日(月)、一時帰国から西原さん兄弟姉妹が戻り、久しぶりに10人が全員揃いました！あらためて、2学期の再スタートです。みんな仲良く！

＜親ばかりですが・・・子に教えられ＞

私事です。7月、ロンドンに住む長女とポーランドを旅行しました。道中、電車の乗り方から名所までの徒歩など全てお任せ。さぞや気を遣ったことでしょう。

二女の出前授業。リオ日学の子どものために！とお願ひするも、準備には相当な時間をかけ、当日は言葉を選び、子どもたちに寄り添い、衆目の集まる中、授業をやり遂げました。子の背中を眺め、自分も頑張ると誓いました。